

ミャンマー孤児に100点寄贈

おもちゃ病院伊都国

ボランティア団体「おもちゃ病院伊都国」（北原誠代表、21人）がこの夏、使われなくなった糸島のおもちゃで点検・修理が済んだ約100点を再使用（リユース）してもらおうと、内戦の続くミャンマーの孤児たちへ



おもちゃ病院のメンバーと瀧野さん(手前右から2人目)ら

贈った。福岡ホストライオンズクラブ(福岡市中央区)のミャンマー委員会との協力で8月20日、糸島市波多江のおもちゃ病院工作室で贈呈式があった。

ミャンマー孤児への寄贈は、2017年に次いで2回目。同団

体のリユース事業部・坂口松代(66)が中心となり、手押し車、ミニカー、絵本、ぬいぐるみなどを用意。同

国駐在で食料や学習の支援に取り組むミャンマー委員会の瀧野隆さん(76)に、それらを託した。

瀧野さんは「内戦が激しくなったミャンマーでは被災孤児が急増。読み書きを学ぶのがやっとで、笑顔になる機会がない。善意のこもったおもちゃはありがたい」と歓迎した。

同団体のミャンマー寄贈のきっかけをつくった波多江保彦顧問は、ミャンマーから届いた子どもたちの写真



おもちゃを手に取り笑顔のミャンマーの子どもたち

を眺めて「子どもたちが喜ぶ姿はリユース活動の励みになる」と喜んだ。

2019(R01).09.05

糸島新聞(2)

(糸島新聞社の使用許諾済み、同社に無断で転載することは出来ません)